

九州代表として北国へ

プロ野球12球団がそれぞれ小学5・6年生を対象にジュニアチームを編成し、北海道札幌ドームを舞台に戦う、もう一つのプロ野球「NPB 12球団ジュニアトーナメント」の大会に、九州から集まった約500人の中から18人に選ばれた「福岡ソフトバンクホークスジュニア」の一員として、金田ジュニアクラブのエース、平元銀次郎くん(金田)が出場しました。

「球の切れと伸びには自信があります」と話す平元くんは12月29日、強打の日本ハムファイターズジュニアとの準決勝で、先登板を果たしました。この大舞台で、立ち上がりこそ味方の失策で先制を許しますが、回を重ねるごとに調子を上げ、マウンドを譲った5回まで3安

打6奪三振の力投を披露。その後、打者の援護を待ちますが、チームは流れを引き寄せることができず、惜しくも4対0で敗退しました。優勝は逃しましたが、九州から集まった精鋭の中でも、その才能が見いだされ、左のエースとしてチームを牽引した平元くん。九州代表としてのプレッシャーを力に変えて、一回り大きく成長を遂げて帰ってきました。

夢への挑戦がスタート

元プロ野球選手の藤田学監督指導のもとで、プロの技術を学び、自信を手にした平元くん。「ホークスジュニアの一員として戦えたことは、今後の野球人生に影響する出来事でした」と白い歯をのぞかせ「将来の夢はプロ野球選手になって、メ



金田ジュニアクラブを引退した現在でも、週に一度は顔を出し、投球技術などを後輩に指導している平元くん。後輩も憧れの先輩に、熱い視線を注いでいます。



この貴重な経験を糧に
日々の練習に励み、
夢をつかみ取りたい。

金田小6年 平元銀次郎くん

目指すは全国制覇。 周囲の支えを背に、 好敵手に挑戦します。

方城中2年 沼野かえでさん



県内から選抜された精鋭約50人の中から3回の選考会を経て県代表12人に選ばれた沼野さん。ゴール下のシュートとブロックが得意。



才能を生かし県選考突破

身長174cm。その恵まれた武器を存分に生かし、バスケットボールプレイヤーとして活躍する沼野かえでさん(伊方)。方城中バスケットボール部に所属し、チームではセンターポジションで常に攻守の起点として活躍しています。そんな

沼野さんが「第25回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会」の福岡県代表選手に決定し、3月28日から3日間、東京の地で全国のトッププレイヤーと戦うことになりました。

沼野さんは「代表に選考されたのは、仲間やチームの支えがあったから。チームが強くなるように、

うまくなって帰ってきます」と力強く語り、代表に選考されてからは、部活以外に毎朝、シュート練習などの自主練を40分程度行い、さらに土日は福岡市に通って選抜メンバーと厳しい練習に奮闘。「県代表12人の中でもレギュラーを奪います」ときたる日に備え、バスケットに没頭する日々を過ごしています。

チームと仲間のために

努力では補えない「長身」という才能を持ちながら、常に上を目指して練習に励む沼野さん。小学2年生から成長を見守る石谷監督は「恵まれた体格と優れた身体能力は全国でも十分通用する」と評価。チームメイトにも信頼され、試合

中にはボール、プライベートでは仲間が沼野さんのもとに集まります。「今の目標は、県選抜で全国制覇すること。そして、そこで学んだ技術をチームに生かし、頼られる存在になりたいです」と目を輝かせながら話す沼野さん。努力の成果と周囲の支えを背に、福岡県代表として全国へ挑みます。

書に没頭した幼少時代

2歳の時からひらがな、カタカナ、数字を覚え、小学1年生になるまでにはすべて書けるようになっていたという吉川晶さん(赤池)。小学1年生から高校3年生まで地元の習字教室に通い、この春、福岡教育大学を卒業し、書道家としての活躍が期待されている22歳です。

「もともと字を書くことが大好きで、遅くまで教室に残って書いていた時もありました」と幼いころを思い起こす吉川さん。全国公募展などでも数々の賞を受賞していきまし

た。しかし、小学校高学年で、あの壁にぶつかったといいます。

「賞をとるために機械的に書いていくようで、字に気持ちが入らず、しばらく書から離れていた時期がありました。書けない時でも形に

未踏の地を求めて

高校入学後は、書に対する意識がガラリと変わり、気持ちの面を大切にするようになったという吉川さん。また、大きな作品を書くようになったのもこの時で、さまざまな表現方法を模索していきました。

高校2年生の時には書道部長としてみんなを先導し、部員全員が県大会に出場するという快挙を成し遂げました。さらに吉川さんは島根県で行われた全国大会出場。各県独自の作風に触れ、改めて自分の方向性を考えるきっかけになっ

たそうです。

「現在、書道セラピーという新領域にも挑戦しています。さらに今は福岡県内の小中学校や適応指導教室に向き、地元で基盤を作りつつ、海外へ日本の文化を発信していきます」と目標を語る吉川さん。経験と柔軟な発想のもとに、書の魅力と可能性を広げていきます。

その時の心が宿る書。
書の可能性を開拓し、
海外にも発信したい。

書道家 吉川晶さん



海外活動も視野に入れ、昨年はフィジーに留学、6月からは日本語教師の資格を目指し勉強を始める吉川さん。生涯学習と書に関連させた取り組みに意欲的です。

